

無量光院梵字ヶ池(ぼんじがいけ)

無量光院庭園にある梵字ヶ池と3つの島は、極楽浄土をこの世に再現しようとする寺の一部として設計されたものです。造営は1170年から1180年の間とされています。この池の最も深いところは約40センチ、140メートル四方(19,600平方メートル)です。

無量光院は藤原秀衡(1122-1187)によって京都の平等院鳳凰堂を模して建立されたと言われています。池にある最大の島、中島に阿弥陀堂がありました。北島と中島は橋で結ばれていました。平等院鳳凰堂と同様に翼廊をもつ阿弥陀堂には阿弥陀如来像が祀られていました。発掘調査によって、東島からもいくつかの建物の跡や、舞台の跡が見つかりました。

1952年に発掘されたこの池は、多くの時間をかけて修復されました。こうして訪れる人が、この貴重な浄土庭園を見られるようになったのです。